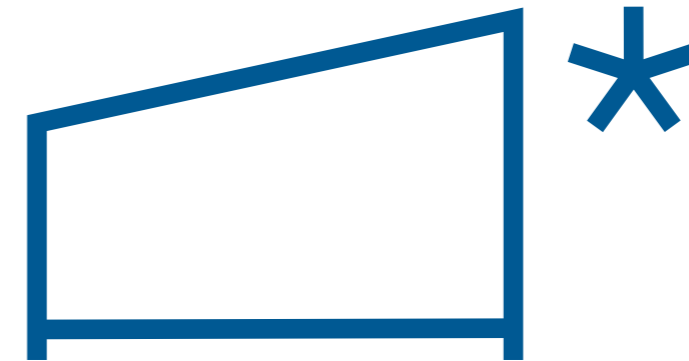


HIGASHIOSAKA  
FACTORIES









HIGASHIOSAKA FACTORies(東大阪ファクトリーズ)は  
東大阪の多彩な技術や創意に富んだモノづくりの魅力を  
国内外に広く発信することを目的としたプロジェクトです。

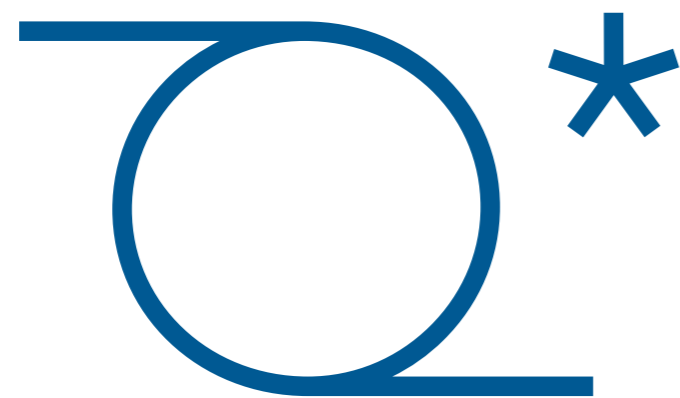
この地に息づく優れた技術と、新たな視点や創造性を掛け合わせ  
これからの時代に適した価値を提案し、産業の活性化を目指します。

そして、ここから生まれたモノや関係性が

FACTOR(ファクター:きっかけ/因子)となり新たな価値や  
未来への可能性を創造するためのプラットフォームとして活動していきます。

300年以上続く歴史と、およそ6,000もの事業所を有する  
「モノづくりのまち東大阪」から、いま改めて世界へ向け  
その魅力を発信します。

FACTOR 01







## EXTENSION CORD



大原電線株式会社

1958年創業。現代の生活の中で欠かすことのできない「ビニルコード(=電線)」の製造を専門に行う。電線と一言でいってもその実は深く、ある技術においては20年の歳月を費やし完成したという特殊なものも扱う。無彩色の円型断面のものが主流ではあるが、大原電線ではあらゆる色彩、太さ、断面形状の電線を小ロットから製造可能。また金属線だけでなく繊維を用いた線材を作ることも可能であり、常に電線の新たな可能性を追求し続けている。

<http://oharadensen.com>



鈴木 元  
GEN SUZUKI STUDIO 代表

ロイヤル・カレッジ・オブ・アート修了。パナソニック株式会社、IDEOロンドン、ボストンオフィスを経て2014年にGEN SUZUKI STUDIOを設立。スタジオを自宅に併設し、生活とデザインを隔てないアプローチで、Herman Miller, Casper, Omronなど国内外の企業と協業している。IDEA賞金賞、GERMAN DESIGN AWARD金賞、クーバー・ヒューイット国立デザイン美術館永久収蔵など受賞多数。GOOD DESIGN AWARD審査員。

<http://www.gensuzuki.jp>

### 老舗電線製造所が作る延長コード

大原電線株式会社は、東大阪市で50年以上にわたり電線製造を手掛ける老舗の町工場である。近年は安い電線を海外から輸入する企業が増え、かつて東大阪に多く存在した電線工場も、現在では数社のみとなっている。大原豊一さん康行さん親子が作る電線は、高い品質と小ロットに対応できる柔軟さで業界からの信頼が厚く、大手メーカーの電気製品や最新の設備を備えた建築など、華やかな場所の裏側で寡黙に社会を支え続けている。東大阪で静かに生産されるこの高品質な電線が、一般の家庭でも使えるように、延長コードを作ることにした。

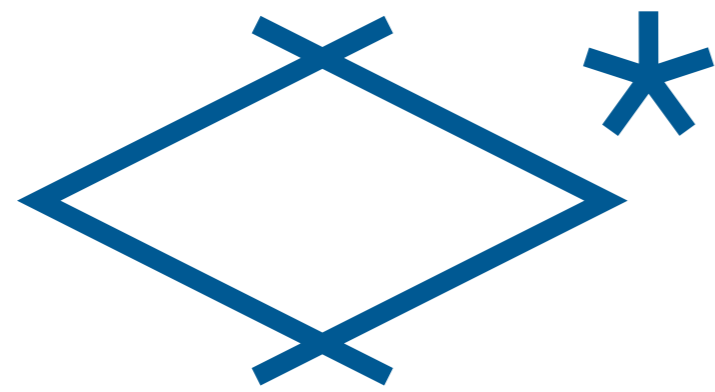
### 誠実なものづくり

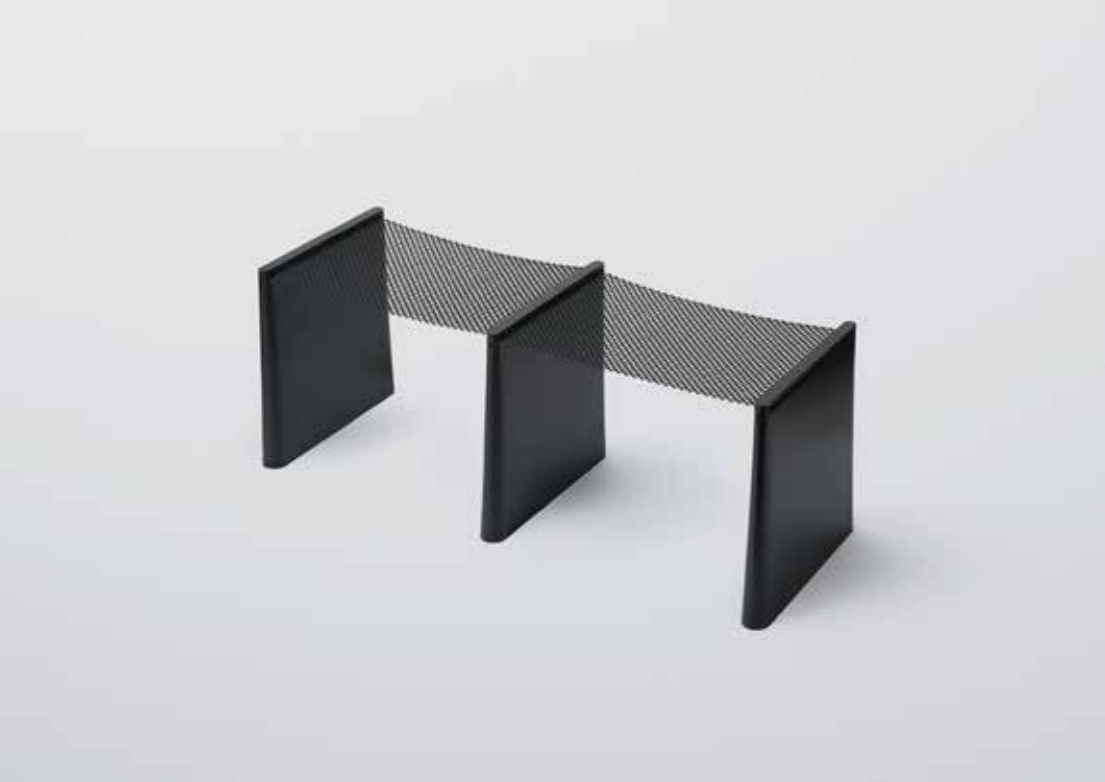
この延長コードは、大原さん親子の作る電線のように、機能的で実用的である。クロスタイプとストレートタイプ、防雨タイプの3種の延長コードは、どのデザインも機能に対してまっすぐで、無駄なディテールはない。高い電圧にも対応できる高品質なVCTケーブルの径は太めだが、しっとり柔らかいので扱いやすい。家庭や店舗、建設現場やアウトドアでの使用にも耐えられるように、電極と本体が一体成型されているので丈夫である。本体からコードまで単一の素材で作られたデザインは、実直で寡黙で、どこか愛らしい。

### Designer's voice

電線は社会を支える大切なインフラだが、極めて匿名的なものである。東大阪市の大原電線を訪れ、大原さん親子の職人気質のこだわりや、新しい事に挑戦するオープンさ、温かい人柄に触れてすっかりファンになってしまった。この工場生産される電線は他で作られるものとは少し違うように感じた。電線は工芸品ではないが、作り手の個性が、匿名的な量産品にもオーラのようなものを与えるのだと思う。この工場に流れる空気、大原さんの実直さや、温かさをそのままプロダクトにしたいと思った。

FACTOR 02





## BENCH



共和鋼業株式会社

1982年創業。誰しもの生活風景の中にある「菱形金網 (= ネットフェンス)」の製造を専門に行う。これまでに素材、色彩、パターンなど、菱形金網の可能性を探求・具現化し、生活の様々な場面で「安心」、「安全」を提供している。一本の線材から紡がれていく様はまるで編み物のようにしなやかでありながら強く、菱形金網の新たな価値を積極的に提案し続けている。

<http://www.kyowakogyo.net>



倉本 仁  
JIN KURAMOTO STUDIO 代表

プロジェクトのコンセプトやストーリーを明快な造形表現で伝えるアプローチで家具、家電製品、インテリアから自動車まで多彩なジャンルのデザイン開発に携わっている。素材や材料を直に触りながら機能や構造の試行錯誤を繰り返す実践的な開発プロセスを重視し、プロトタイプングが行われている自身の“スタジオ”は常にインスピレーションと発見に溢れている。iF DESIGN AWARD、GOOD DESIGN AWARD、Red Dot Design Awardなど受賞多数。GOOD DESIGN AWARD 審査員。

<http://www.jinkuramoto.com>

### 受注型から発信型のものづくりへ

共和鋼業株式会社が製造する菱形金網は、慣れ親しんだ運動場のフェンスや、落石防止のための強靱な金網など、様々な場所に用いられている。大規模な公共事業から家庭の中まで、ありとあらゆる場所に用いられる素材を製造している工場である。また、様々な種類の金網を受注し、素材として納品する傍らで、自社の金網を使った新たな製品開発にも力を入れている。それは代表の森永さんの物づくりへの挑戦的な姿勢を表すものであり、今回のプロジェクトもこの発信型の姿勢を礎に、金網を用いた新たな商品を開発することにした。

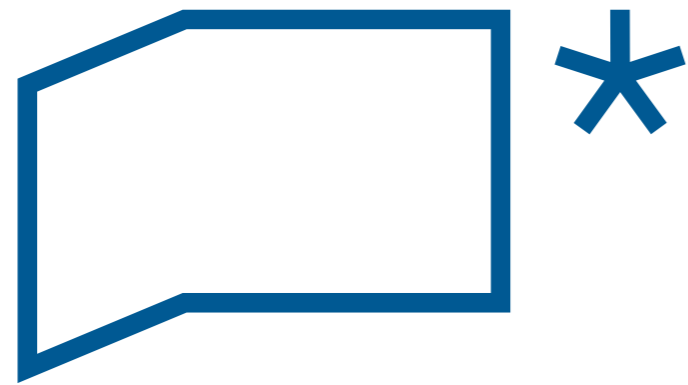
### 金網が持つ温もりの記憶

共和鋼業で触れた菱形金網は、冷たく無機質な金属のイメージとは違うものであった。柔らかくしなり、どこか温かみを感じる手触りと重み。それらは私たちの原体験にある、金網に手を掛けたときの感触や音やたわみのように、いつかの記憶に結びついているようであった。そのアナログな感触を楽しむことのできるモジュール式のベンチがこの「ネットベンチ」である。精緻でシャープな外観と、柔らかくしなって体を支えてくれる座面。菱形金網の製造特性を活かし自由な長さに調節して使うことができるので、用途・シーンに応じて幅広く活用できるモジュールベンチとなった。

### Designer's voice

代表の森永さんに初めて会った時、真摯で穏やかな語り口調の裏側にある情熱を感じた気がした。共に過ごすようになって改めて気づかされるのであるが、仕事やものづくりに対する愛情が半端ないのである。金網を用いた自作の鞆を使い、左手には金網の自作アクセサリ。自らがまず使って金網の広告塔となる、その金網愛に溢れる姿勢をみているうちに、その熱量に当てられている自分に気づく。聞けば森永さんは会社を父から継いだ2代目だという。受け継いだモノに対する並々ならぬ決意と責任を側で見せてもらい、このプロジェクトに参加できて本当に良かったと思った。

FACTOR 03







## UNIT SHELF



株式会社仁張工作所

1964年創業。幅広いシーンで利用されている「板金加工による家具や什器」の製造を専門に行う。設計から加工、最終製品までワンストップでの生産を可能とする「板金加工の専門家集団」。金庫製造のノウハウから生まれたスチール家具は高い精度を誇り、郵便などのインフラからアミューズメントに至るまで、あらゆる分野にその技術力を提供している。現在も新たな技術を積極的に取り入れ、熟練の技能と最新の技術を活かし、板金加工の可能性を押し広げている。  
<https://www.nimbari.co.jp>



北川 大輔  
DESIGN FOR INDUSTRY 代表

金沢美術工芸大学を卒業後、NECデザインを経て、2015年に株式会社DESIGN FOR INDUSTRYを設立。関わる全ての人とともに分かち合える“喜び”を創り出すことを信条に、家具や日用品から家電、ロボット、先端技術研究開発、新素材開発、都市ブランディングなど国内外問わず多彩な領域にて、“心地よい革新”という視点からデザイン・ディレクションを行う。GOOD DESIGN AWARD、GERMAN DESIGN AWARD winner、iF DESIGN AWARDなど受賞多数。  
<http://www.designforindustry.jp>

### 新たな市場と定番を

仁張工作所はこれまで、インフラから公共空間、アミューズメントなど多岐にわたるBtoBビジネスシーンにおいて、それぞれの用途に特化した特注板金家具の製作を多く手掛けてきた。そこで培われた高く柔軟な対応力を活かしつつ、これまでにはなかった小売店舗やスモールオフィス、居住空間といった新たな市場の開拓とより幅広く多くの人々が触れることのできる定番品を備える、という観点から機能／デザイン／価格でそれらに応え得る新しいシステムユニットシェルフを構想した。

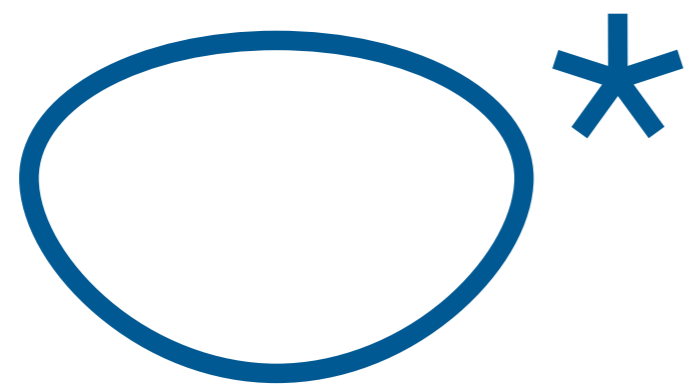
### 美しく整える

幾重にも重なる試行錯誤のもと、極限まで要素とノイズを削ぎ落とされたシェルフは、非常にシンプルであるからこそ個性を纏っている。十分な強度と収納力を持ちながら、どこまでも軽やかな印象で、あらゆる書籍や商品そして空間をも美しく整えてくれるユニットシェルフである。従来のユニットシェルフにはない、仁張工作所だからこそ可能な高い精度によるシームレスなデザインは、パーソナル／パブリックのいずれの空間にも馴染む存在になるだろう。製品の99%が板金から作られた、今までにない新たな定番となるユニットシェルフである。

### Designer's voice

仁張工作所の持ち味は、スピーディでフレキシブルなものづくりを可能にするワンストップの製造環境にある。また、自らを「板金加工の専門家集団」と称する彼らの板金加工に関する知識と技術は素晴らしいに尽きる。板材を切り、曲げ、繋ぐ。その限られた工法の中で如何にして15mm厚という極薄・極細のユニットシェルフを実現するか。度重なる試作のなか、当初より条件を緩めることなく外観はほぼ変わらずに、あらゆる知恵が盛り込まれ、これまでになかったユニットシェルフを実現した。その仕上がりを見たとき、「板金加工の職人集団」といっても過言ではないと思った。

FACTOR 04





# METAL TREE SUPPORT



北勢工業株式会社

1949年創業。都市空間の日常風景を形作る「景観鋳物」の製造を専門に行う。自社工場にて鉄を主とした鋳造を行い、日本全国の都市景観を支えている。扱う製品は多岐にわたり、自社で設計・開発を行うことで鋳物以外の素材にも精通しており、寺社仏閣といった歴史的建造物から建築家の細かなこだわりなど、複雑な条件に合わせた景観製品の実績を持つ。より洗練された生活風景を形作ることを目指し、その方法を追求し続けている。

<https://www.hokusei-kogyo.co.jp>



田淵 智也  
OFFICE FOR CREATION 代表

桑沢デザイン研究所を卒業後、家具メーカーにて企画・オリジナル商品のデザイン・海外デザイナーとの商品開発を担当。2010年に合同会社オフィスフォークリエーションを設立。家具や日用品等のプロダクトデザインを軸に、グラフィックやアートディレクションまで包括的なクリエイションを行う。Lapalma、Viccarbe、Systemtronic、Interiorsなど国内外のクライアントと協業し、高い実績と評価を得ている。ELLEDECOR Young Japanese Design Talent、GOOD DESIGN AWARD、Architizer A + Awards、Archiproduct Design Awardsなど受賞多数。

<http://www.officeforcreation.jp>

## 技術を活かすものづくり

北勢工業は鋳造品メーカーとして上下水道をはじめ道路、電力、通信といったインフラ基盤や、樹木保護盤、車止めなど、都市の機能や景観を支えるものづくりを通じ、街や暮らしに貢献してきた。今回のプロジェクトでは、都市環境における快適性や安全性を追求するものづくりを模索する中で、近年の大型台風や豪雨などの影響で注目を集めている『街路樹支柱』に着目。鋼管で作られている既存製品を見直し、鋳物を用いた製品にすることで、機能性やデザイン性を向上させると同時に、北勢工業の高い技術力をより良く表現できるようなプロダクトの開発を目指した。

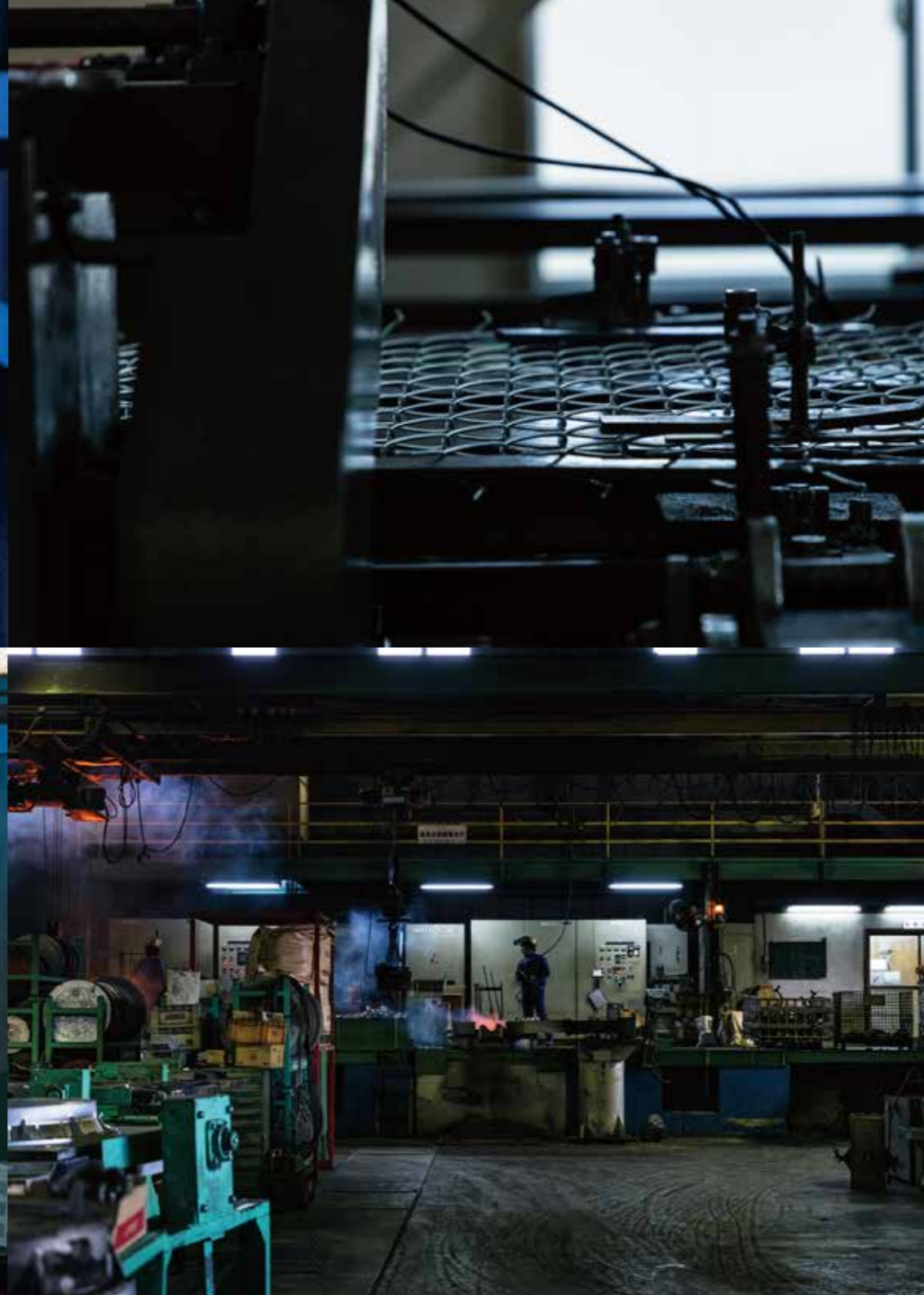
## 製法を活かしたデザイン

鋳造の特性を活かし、1つの型から生まれるパーツ同士を連結して作る『街路樹支柱』。樹木を囲む鋳物のリングは3つの同じパーツで構成される。鋳物のパーツは、高い強度と耐久性をもつと共に、柱となる長円形の鋼管を挟み込みながら互いをボルト1本で締結する機構や、樹木を支えるベルトを通す形状を有している。これらは製品に求められる様々な機能や条件を、素材や製法の特性を活かしながら形に落とし込む検討を繰り返し行った結果である。鋳物ならではのデザインに必要な機能を十分に満たしながら、都市の景観に馴染むすっきりとした佇まいを実現した。

## Designer's voice

北勢工業の強みは時代や環境の変化、社会のニーズに素早く対応したものづくりにある。公共性の高い製品に対する責任のある製品開発と信頼性の高い生産体制によって、都市の機能や景観を支える製品を数多く製造し、広く社会に貢献している。今回のプロジェクトにおいても、提案に対し建設的な議論を重ね、試行錯誤を繰り返しながらデザインを具現化する事ができたのは、長年にわたって積み重ねてきた知識や技術力に加え、暮らしを支えるものづくりへの責任と安心安全な社会への想いを持っているからこそだと思う。





## HIGASHIOSAKA FACTORIES

<https://ho-factories.com/>



Project Management: Maki Hirakawa

Creative Direction: Daisuke Kitagawa

Art Direction + Design: Ken Okamoto, Yamato Iizuka (Ken Okamoto Design Office Inc.)

Photograph : Kenta Hasegawa, Mitsuru Sakurai

〒577-0011 東大阪市荒本北1丁目1番1号

東大阪市役所都市魅力産業スポーツ部モノづくり支援室

E-mail: [monodukuri@city.higashiosaka.lg.jp](mailto:monodukuri@city.higashiosaka.lg.jp)

Tel: 06-4309-3177 月曜日～金曜日の9:00～17:30(祝日、年末年始を除く)